

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-325153

(43)Date of publication of application : 22.11.2001

(51)Int.Cl.

G06F 12/14

H04L 9/10

(21)Application number : 2000-142456 (71)Applicant : TOYO COMMUN EQUIP CO LTD

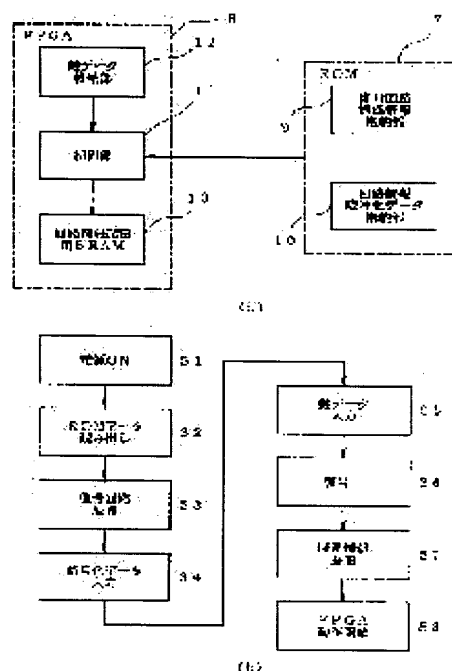
(22)Date of filing : 15.05.2000 (72)Inventor : KUROSAWA KAZUO

(54) CIRCUIT INFORMATION PROTECTING METHOD FOR FIELD PROGRAMMABLE GATE ARRAY

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a circuit information protecting method of an FPGA by which data of a ROM in which circuit information of the FPGA is written can be protected and use of the ROM by unauthorized copy can be prevented.

SOLUTION: The method is carried out by providing the ROM 7 to store the circuit information and the FPGA 8 as a user programmable integrated circuit, the ROM 7 is provide with a decoding circuit structure information storage part 9 and a circuit information encryption data storage part 10 and the FPGA 8 is provided with a control part 11 to control read and write of the data stored in the ROM 7 and the FPGA 8, a key data storage part 12 and an SRAM 13 for storing circuit information.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-325153

(P2001-325153A)

(43) 公開日 平成13年11月22日 (2001. 11. 22)

(51) Int. Cl.

G 0 6 F 12/14

H 0 4 L 9/10

識別記号

3 2 0

F I

G 0 6 F 12/14

H 0 4 L 9/00

テーマコード(参考)

3 2 0 B 5 B 0 1 7

6 2 1 Z 5 J 1 0 4

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願2000-142456(P2000-142456)

(22) 出願日

平成12年5月15日 (2000. 5. 15)

(71) 出願人 000003104

東洋通信機株式会社

神奈川県高座郡寒川町小谷2丁目1番1号

(72) 発明者 黒沢 和雄

神奈川県高座郡寒川町小谷2丁目1番1号

東洋通信機株式会社内

Fターム(参考) 5B017 AA03 AA06 BA07 CA11

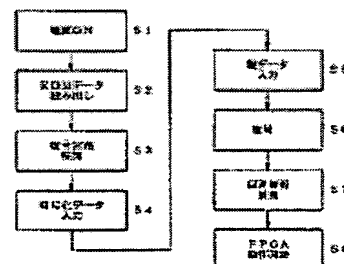
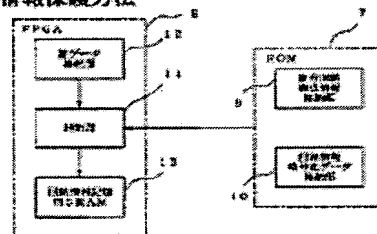
5J104 AA47 JA03 NA02

(54) 【発明の名称】 フィールドプログラマブルゲートアレイの回路情報保護方法

(57) 【要約】

【課題】 F P G A の回路情報を書き込んだ ROM のデータを保護し、ROM を不正にコピーして使用することを防止できる F P G A の回路情報保護方法を提供することを目的とする。

【解決手段】 回路情報を格納する ROM 7 と、ユーザがプログラム可能な集積回路である F P G A 8 とにより構成し、ROM 7 には、回路情報格納部 9 と回路情報暗号化データ格納部 10 とを備え、F P G A 8 には、ROM 7 及び、F P G A 8 に格納したデータの読み出し及び書き込みを制御する制御部 11 と回路データ格納部 12 と回路情報記憶 SRAM 13 とを備えている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 揮発性メモリを備えたフィールドプログラマブルゲートアレイに回路情報を書き込む手段として該フィールドプログラマブルゲートアレイ外部に不揮発性メモリを設け、該不揮発性メモリに回路情報を書き込み、電源投入時に前記不揮発性メモリからフィールドプログラマブルゲートアレイに備えた前記揮発性メモリに回路情報を書き込む方法において、前記不揮発性メモリに書き込む回路情報を暗号化データとし、フィールドプログラマブルゲートアレイ上で暗号化データを復号したことを特徴とするフィールドプログラマブルゲートアレイの回路情報保護方法。

【請求項 2】 前記回路情報を保護する際に、フィールドプログラマブルゲートアレイ内部の外部から読み出し不可能な不揮発性メモリ領域に鍵データを格納し、復号時に使用したことを特徴とする請求項 1 記載のフィールドプログラマブルゲートアレイの回路情報保護方法。

【請求項 3】 前記回路情報を保護する際に、前記フィールドプログラマブルゲートアレイ外部に設けた回路情報を格納する前記不揮発性メモリに復号回路の構成情報と前記暗号化データとを格納したことを特徴とする請求項 1 記載のフィールドプログラマブルゲートアレイの回路情報保護方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はフィールドプログラマブルゲートアレイ（以降、FPGAと称す）の回路情報保護方法に関し、特にFPGAの揮発性メモリ（以降、SRAMと称す）領域に回路情報を記憶して動作するFPGAの回路情報保護方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 FPGAは、回路を構成する素子の位置や配線の情報を与えるプログラミングを行い入力することにより所望の論理回路を生成する集積回路である。即ち、FPGAには、予め多数の汎用論理回路を格子状に配置した標準的なチップを備えており、ユーザは、所望の集積回路を実現するためFPGAに必要な所定の情報をプログラムし入力することによって、前記汎用論理回路の接続を行ない、所定の機能を備えた論理回路の生成を可能とする。そこで、FPGAを採用することにより装置の設計、製造を短期間で行うことが出来ることから初期コストが少ない等、装置の開発を行う上で非常に有利となる。又、FPGAを実現するもの一つとしてSRAM方式のFPGAがあり、FPGA内部に設けられているSRAM領域に、所望の集積回路を得るために必要な回路機能を定義する回路情報をプログラムして格納し、該プログラムに従って動作する。そこで、前記回路情報を電源切断時にも保持する必要がある外部に不揮発性メモリ（以降、ROMと称す）を用意し、電源投入時に自動的に前記回路情報をFPGAにロードするように

している。

【0003】 図4に従来から用いられているSRAM方式FPGAのチップ構成例を示す。FPGAチップ1は、入出力ブロック2と、論理ブロック3と、スイッチマトリックス4とにより構成し、更にスイッチマトリックス4は、1ビットSRAMセル5と、FETトランジスタ6とにより構成する。FPGAの動作を説明すると、FPGAが所望の機能を果たすように回路機能情報をプログラミングし、外部からFPGAのSRAMに書き込むことによりスイッチマトリックス4を制御し、論理ブロック3の機能を設定して複雑な論理演算を行う。入出力ブロック2は、外部への入出力ピンと論理ブロック3とのインタフェース手段であり、一般にトライステート制御可能なドライバーとレシーバーを備えている。論理ブロック3は、通常、複数の論理関数を備えた標準回路が用意され選択することが可能である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来のSRAM方式のFPGAは、回路情報を記憶しておくROMを用い、電源投入時にROMから回路情報をロードして使用しているが、このROMの内容は、ROMライタ等を使用することにより容易に第三者が読み取り可能であり、コピーしたROMを用いてFPGAの機能を不正使用することができる。又、ROMに書き込むデータの形式、FPGA-ROM間のデータの転送方法を秘密にすることにより、秘密の漏洩を防止することは可能であるが、内容をコピーして使用することは防止できない。本発明は、上述したような従来のSRAM方式のFPGAが抱えている問題点を解決するためになされたものである。従って、ROMに書き込んだ回路情報を保護しROMを不正にコピーして使用することを防止できるFPGAの回路情報保護方法を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために本発明に係るFPGAの回路情報保護方法は、以下の構成をとる。請求項 1 記載のFPGAの回路情報保護方法は、揮発性メモリを備えたフィールドプログラマブルゲートアレイに回路情報を書き込む手段である。外部に不揮発性メモリを設け該不揮発性メモリに回路情報を書き込み、電源投入時に前記不揮発性メモリからフィールドプログラマブルゲートアレイに備えた前記揮発性メモリに回路情報を書き込む方法において、前記不揮発性メモリに書き込む回路情報を暗号化データとし、フィールドプログラマブルゲートアレイ上で暗号化データを復号するよう構成する。請求項 2 記載のFPGAの回路情報保護方法は、前記回路情報を保護する際に、フィールドプログラマブルゲートアレイ内部の外部から読み出し不可能な不揮発性メモリ領域に鍵データを格納し、復号時に使用するよう構成する。請求項 3 記載のFPGAの回路情報保護方法は、前記回路情報を保護する際に、外部

に設けた回路情報を格納する前記不揮発性メモリに復号回路の構成情報と前記暗号化データとを格納するよう構成する。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、図示した実施例に基づいて本発明を詳細に説明する。先ず、本発明の実施例を示す前に、本発明に係る暗号化技術について説明する。暗号とは、情報の内容が当事者以外に知られないように情報を変換することをいい、送信側において暗号化鍵と呼ばれるパラメータにより情報を暗号文に変換し、受信側において復号鍵を用いて暗号文を元の情報に戻すことである。又、暗号化鍵と復号鍵との関係には、両者が同一であり片方から残りを容易に求められない暗号である共通鍵方式と、片方から残りを容易に求められない暗号である公開鍵方式がある。本実施例における暗号方式は、共通鍵方式を採用しており、以下共通鍵方式を説明する。共通鍵方式は、情報の送信側及び受信側が予め共通の鍵を共有しておき、この鍵を基に情報を暗号文に変換する方法である。共通鍵方式の特徴として暗号化処理の高速性が有り、任意の入力に対する暗号化出力への処理遅延は十分小さく効率の良い方式である。共通鍵方式の具体例として知られているものとして、DES方式が有り、64ビットのデータを56ビットの鍵により暗号化し、鍵データは任意とするが一般的には乱数データを生成して、それを鍵としている。

【0007】図2に共通鍵方式による暗号化処理の流れを示す。同図の流れを説明すると、先ず、送信側においては、機密保護を必要とする情報を定められたパラメータからなる暗号化鍵により、そのままでは意味を持たない暗号情報に変換する。暗号化鍵と受信側において使用する復号鍵は、前もって定めた共通のパラメータを持ち、共通鍵暗号とする。受信側においては、送信側に備えていた暗号化鍵に対応する復号鍵を所有しており、送られてきた暗号情報を復号鍵により復号する。一方、第三者が暗号情報を入手し暗号情報を復号しようとする行為である解読とは、復号鍵と同等の機能を備えたパラメータを数学的手段を用いて再現することで、その困難さが暗号系の安全性に係る。そこで、本実施例における暗号とは、回路情報が書き込まれているROMの内容が、第三者に知られないよう回路情報を何らかのパラメータに従った暗号化鍵により変換し、FPGAにおいて、入力した暗号化されている回路情報をFPGAに備えた復号鍵により元のデータに復号するものである。

【0008】図1は、本発明に係るFPGAの回路情報保護方法の一実施例を示す構成図であり、(a)にブロック構成例を、(b)に処理の流れ図を示す。図1(a)を説明すると、同図は、回路情報を格納するROM7と、ユーザがプログラム可能な集積回路であるFPGA8とにより構成し、ROM7には、復号回路構成情報格納部9と回路情報暗号化データ格納部10とを備

え、FPGA8には、ROM7及び、FPGA8に格納したデータの読み出し及び書き込みを制御する制御部11と鍵データ格納部12と回路情報記憶用SRAM13とを備えている。

【0009】図1(a)の動作を説明すると、電源起動時に回路情報をFPGA8に出力するROM7には、復号回路構成情報格納部9に暗号化データを暗号化されていないデータに復号する操作を行うための復号演算を実行する回路のデータが、又、回路情報暗号化データ格納部10には、FPGAが機能する回路情報を暗号化したデータとが格納されている。そこで、電源を投入すると、FPGA8は、論理ゲート及びフリップフロップ等で構成する制御部11の動作によりROM7より復号回路構成情報を読み出し、読み出した復号回路をFPGA8上に展開する。次に、ROM7より回路情報暗号化データを読み出し、前記復号回路に入力して復号する。FPGA8では、ROM7において回路情報を暗号化した際に使用した暗号化鍵に対応した鍵データを鍵データ格納部12に備えており、復号する際に使用する。鍵データ格納部12は、鍵データを第三者に読み出されると情報が漏れてしまうため、外部から鍵データを読み出すことができないよう鍵データ出力が外部出力用ピン等に接続されない構成をとる。そこで、復号回路により復号した回路情報は、回路情報記憶用SRAM13に記憶され所望の機能を備えたFPGAとして動作し、ROM7に格納された回路情報は、第三者に対して十分機密保持可能となる。

【0010】図1(b)について説明する。同図は、本発明に係るROMからFPGAへのデータの読み出し手順を示す処理の流れ図である。FPGAを搭載したシステムに電源を投入すると(ステップ1)、FPGAは、制御回路を動作させROMよりデータを読み出す(ステップ2)。回路情報を復号するために、先ず、暗号演算を実行する回路となる復号回路構成情報を読み出し復号回路をFPGA内に展開する(ステップ3)。次に、回路情報が暗号化された回路情報暗号化データを読み出し、FPGA内に展開された復号回路に入力する(ステップ4)。そこで、FPGA内に備えている、ROM1に格納した回路情報を暗号化する際に使用した暗号化鍵と同一の鍵データを復号回路に入力し(ステップ5)、回路情報を復号する(ステップ6)。復号した回路情報は、SRAM13に記憶して(ステップ7)FPGAの所望の回路を構成し、FPGAとして機能する(ステップ8)。

【0011】次に、本発明に基づいたFPGAを設計する際に必要なROMへの回路情報書き込み手順について説明する。図3は、本発明に係るROMへの回路情報書き込み手順について説明した流れ図である。同図を説明すると、FPGAに持たせる必要な機能を具体化する回路設計を行い(ステップ1)、設計した回路に対応する

回路図、或いは、ハードウェアディスクリプションランゲージ（以降、HDLと称す）を用いて回路の機能レベルを論理記述したものを作成する（ステップ2）。更に、前記回路図或いはHDLによる記述をもとに、回路を接続する素子間の接続関係や素子の電気的特性を記述したテキストファイルであるネットリストを作成し（ステップ3）、更に、FPGAに格納する鍵データと同一の鍵データによりネットリストを暗号化する（ステップ4）。次に、暗号化データを暗号化されていないデータに復号するための復号回路の回路図或いはHDLによる記述を作成し（ステップ5）、この回路図、或いは、HDLによる記述をもとにネットリストを作成する（ステップ6）。最後に、ステップ4により作成した暗号化したネットリスト及びステップ5により作成したネットリストをROMに書き込む（ステップ7）。このようにして、回路情報を書き込んだROMを用意し、電源投入時にFPGAにデータを読み出させる。

【0012】

【発明の効果】本発明は上述したように、FPGAの回路情報保護のために暗号化技術を取り入れたものであり、SRAM方式を採用したFPGAに必要な回路情報を読み出すROMの内容を保護し、不正コピーを防止する上で大きな効果を発揮することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るFPGAの回路情報保護方法の実施例を示す構成図であり、（a）にブロック構成例を、（b）に処理の流れ図を示す。

【図2】共通鍵方式による暗号化処理の流れを示す。

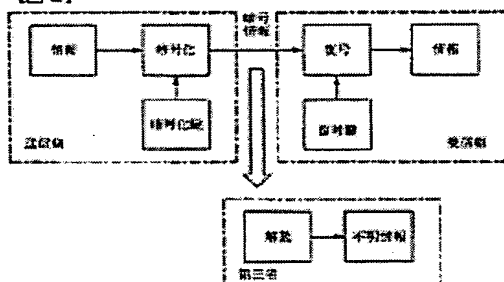
【図3】本発明に係るROMへの回路情報書き込み手順について説明した流れ図である。

【図4】従来から用いられているSRAM方式FPGAのチップ構成例を示す。

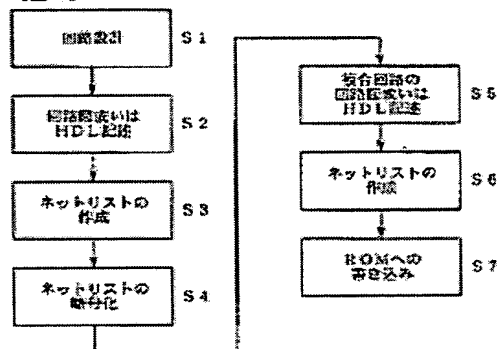
【符号の説明】

- 1・・・FPGAチップ、
- 2・・・入出力ブロック、
- 3・・・論理ブロック、
- 4・・・スイッチマトリックス、
- 5・・・1ビットSRAMセル、
- 6・・・FETトランジスタ、
- 7・・・ROM、
- 8・・・FPGA、
- 9・・・復号回路構成情報格納部、
- 10・・・回路情報暗号化データ格納部、
- 11・・・制御部、
- 12・・・鍵データ格納部、
- 13・・・回路情報記憶用SRAM

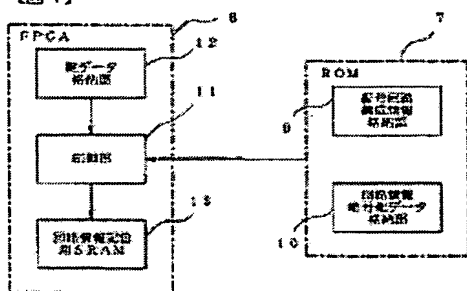
【図2】



【図3】



【圖 1】



【圖4】

